

[今週のチェック・ワード]

[TPP交渉のひとつの見方について]

時々、このレポートでご報告を申し上げておりますが、貿易や投資、関税に関する交渉は、世界的にはウルグアイ・ラウンドのような多国間交渉が原則であるとして、国際社会では多国間交渉中心の動きを示していましたが、一般的に考えれば、

「当事者が増えれば交渉は難航しやすくなる。」

「リーダーシップを持つ国がいなければ交渉はまとまりにくい。」

と言え、正にこうした傾向が強まる中で、世界の貿易投資関連交渉は、「二国間FTAの締結」に少しずつシフトしていました。

韓国などは、正にこの二国間FTAをフルに活用して、相手国が一カ国となっているだけでなく、相手方が既に数カ国でまとまっているEUやASEANなども相手にして、多くの国々とFTA締結をしています。

しかし、米国がTPP推進を謳った後は、世界は再び、「多国間交渉」を注目し、その進展を、固唾を呑んで見守っています。

そして、今回こそはいよいよ最終妥結かと思われた先日のTPP会合でも最終妥結はされませんでした。

「案の定」と言う声もありますが、事態はかなり進展したとの声もあり、更に、「改めて今月末の会合を！！」との動きがあるので、これを先ずは期待したいところです。

しかし、妥結したとしても、次の問題は実際に妥結された内容が、私たち日本人、日本企業にとって、どこが有利でどこが不利かということを見極めなくてはなりません。

日本にとっては大切な時期です。

こうした中、米国や日本は、水面下で、このTPP交渉のもつれを横睨みしながら、中国本土が水面下で推進する、「中国本土がリードする新たな自由貿易投資協定締結の動き」を意識するべきであると私は考えており、多分、だからこそ日米は、「TPP交渉の早期締結を」と動いているものと思います。

そして、そうした日米の動きを知りつつ、TPPの他の加盟国は、自国に有利な条件を引き出そうと最後の駆け引きをしているのではないのでしょうか。

正に、パワーゲームの凝縮された姿がここにも垣間見られていると思います。

尚、TPP交渉には関心を持ちながらも正式加盟をしていない韓国からは、TPP交渉の合意見送りについて、

「相当な進展があったようであるも、合意できず。

早期に新たな突破口が見つからない限り、TPPは長期にわたり漂流するおそれすらある。」

との見方を示す一方、韓国は中国本土が主導する「アジアインフラ投資銀行」(AIIB)の創設メンバー国として参加しており、むしろTPP交渉の様子見しながら、中国本土との連携を少しずつ強めたほうが韓国の国益に繋がるとの見方も一部には出てきているようです。

複雑な世界情勢です。

[台湾・中国・その他]

—今週の台湾・中国—

[台湾]

先般、このレポートでその可能性を触れたが、台湾の有力野党であり、国民党を同根とする親民党の宋主席が来年の総統選への出馬を正式に表明をした。

宋氏自身も国民党の出身であり、出馬は今回で4回目となる。

これにより、ただでさえ、劣勢が伝えられている与党・国民党の候補者である洪秀柱氏は基礎票を宋氏に奪われ、洪氏が更に不利になるのではないかとも言われ始めている。

政局を左右する今後の動向をきちんとフォローしたい。

[中国]

中国本土の製造業の景況感を示す製造業購買担当者指数（PMI）の7月のデータを見ると、前月から1・6ポイント悪化して47・8となったと報告されている。

7月は新規の注文や輸出といった主要な要素が、軒並み前月より縮小する傾向を示しており、特に外需の縮小で内需も縮小し、縮小トレンドが加速化しているとも言える。

中央銀行である中国人民銀行は今年に入って3度の利下げを行い、個人や企業が融資を受け易くし、また国務院は7月だけでも4度、経済対策についての話し合いを常務会議で行い、インフラ建設などを増やすよう指示しており、今後は中国本土に於いても財政出動を伴う景気対策が加速化される可能性もあると見ておきたい。

—今週のニュース項目（見出し）—

1. 南沙諸島問題について
2. 中国本土、アフリカ外交について
3. 中国本土、公的債務について
4. 米国の南沙諸島問題に対する動向について
5. 中国本土、輸出動向について
6. 米中関係について
7. ミャンマー情勢について
8. タイ情勢について

—今週のニュース—

1. 南沙諸島問題について

先週は東南アジア諸国連合（ASEAN）10か国の外相会議が開催され、様々な議論がなされた。そして、中国本土による南シナ海での岩礁を埋め立て、軍事拠点化の動きが激しく議論されたが、ASEAN全体として、大きな動きはなかった。

こうしたことを見ても、やはり中国本土の影響力はアセアンに対しても強まってきていると言える。今後の展開を注視したい。

2. 中国本土、アフリカ外交について

中国本土の王毅外相は今月8～10日にかけて、西アフリカのシエラレオネ、リベリア、ギニアを公式訪問、各国の外相らと会談した。

エボラ出血熱の感染が拡大した各国への医療・復興支援などについて協議されたと見られている。所謂、南南協力、即ち、新興国同士の協力を得意とする中国本土の巧みな経済外交の成果、動向をフォローしたい。

3. 中国本土、公的債務について

筆者の認識では、中国本土・金融当局は、米国等の先進国のような「行き過ぎた広義の信用創造による景気刺激策」を取らず、実体経済の拡大に注力する政策を取ってきていたと見ている。

しかし、最近では、少しずつ経済成長が鈍化する中、「財政出動を伴う景気対策」を取り、この結果として公的債務が増加してきていると見ている。

こうした中、中国本土政府の債務残高が2013年末に56兆5,000億人民元に達しており、前年対比では約20%増えていたと中国本土政府系シンクタンクである中国社会科学院が発表している。

そして、同院は地方政府の債務急増が要因である、との見方を示しており、また、不動産市況の低迷に伴う景気悪化が地方財政を圧迫しているとしている。

尚、筆者は、

「中央政府に代わり、地方政府がこうした負債を拡大し、万一の際には、中央政府の財政が痛まぬ形で景気刺激を図り始めた。(即ち、俗の表現をすれば、最悪の場合には地方財政にとかけの尻尾きりのような形で負債を負担させ、中央政府の財政に不良債権が及ばぬようにしているとも言えるということである。)」

と見ている。今後の動向をフォローしたい。

4. 米国の南沙諸島問題に対する動向について

南沙諸島問題は更に複雑化している。

こうした中、米国のデジタルグローブ社は、中国本土が埋め立てを進めている南シナ海の岩礁について最近の衛星写真を公表した。

更に、これに関して米国のシンクタンクである戦略国際問題研究所(CSIS)は、

「既に3,000メートル級の新たな滑走路建設を可能にする埋め立て作業が進んでいる。」

との分析をしており、米国・国防省筋は南シナ海に於ける中国本土の軍事的プレゼンス拡大を牽制する動きが活発化してきていると言えよう。

今後の動向をフォローしたい。

5. 中国本土、輸出動向について

中国本土政府・税関総署が発表した本年7月の貿易統計によると、中国本土の輸出は前年同月対比8.3%減の1,951億米ドルとなり、2カ月ぶりの減少となったと発表している。

国内景気の減速に悩む中国本土経済にとって、外需の減速は更に大きな懸念要因になろう。

6. 米中関係について

米国のケリー国務長官は、ベトナム・ハノイを訪問した際に、緊張が高まっている南シナ海問題について、中国本土による岩礁埋め立てや施設建設に関して、「深い懸念を持っている。」と述べ、中国本土による海洋進出への警戒感を改めて示した。

中国本土を睨み、米国とベトナムとの連携が進むかどうか注視したい。

尚、こうした状況下、中国本土政府・国防部は、中国人民解放軍・空軍機が台湾とフィリピン間のバシー海峡を抜け、西太平洋の空域で訓練を実施したことを明らかにした。

中国本土空軍によるこの空域での演習は3月、5月に続き本年3回目となるものである。

東シナ海、南シナ海での中国本土の覇権、そしてそれに対抗する米国を強く意識した動きであると見ておきたい。

7. ミャンマー情勢について

民主化の進展と経済成長が期待されているミャンマーではあるが、ここに来て、政局の進展に不安が出てきている。

こうした中、ミャンマーの首都ネピドーでは、与党・連邦団結発展党（USDP）の本部を治安部隊が占拠するという事態が発生した。

前党首のテインセイン大統領と現党首のシュエマン下院議長の対立が激化していることから、党運営の主導権争いが背景にあると見られている。

総選挙を控え、これにより、ミャンマーの政治が悪化するのか、むしろ安定するのか注視したい。

8. タイ情勢について

筆者は、タイ経済は、その経済基盤の充実によって、一応の落ち着きを見せてはいるものの、政局から見て、不安感が払拭できない状況にあると見ている。

注意しなくてはならない。

そして、タイの国内安定にはプミポン現国王の存在は欠かせない。

しかし、最近はその体調の悪化が懸念されている。

こうした中、タイ政府は、

「首都バンコクの病院で経過観察中のプミポン国王の体調が良好である。」

と発表している。

肺炎の症状が治まったほか、血圧や心拍数が正常値に戻ったとのことである。

これによって、タイの政局が安定していくのかどうか、その動向をフォローしたい。

[韓国]

—今週の韓国—

韓国政府・統計庁が発表した消費者物価動向によると、韓国の7月の消費者物価は前年同月対比0.7%上昇している。

その上昇率は前月と同じであり、8カ月連続で0%台となっている。

統計庁は、

「電気料金は下がったが、首都圏の交通料金が上昇し、全般的に大きな変化はない。」

とコメントしている。

韓国国内では、「物価の低め安定」という意味ではこれを評価しているものの、「デフレ懸念」という否定的な見方も出ている。

筆者としては、物価の低め安定は韓国経済の底辺の安定化に繋がると見ており、こうした状況を比較的、肯定的に眺めているが、今後の動向を注視したい。

—今週のニュース項目（見出し）—

1. 現代エンジニアリング、業況について
2. 外貨準備高動向について
3. 三星電子、業績について
4. 現代・起亜自動車グループ、国内販売について
5. 7月の輸入車動向について
6. 南北関係について

7. 米中韓関係について
8. 米韓合同軍事演習について
9. 輸出入物価指数について
10. 零細事業者数について
11. 日朝関係に関する韓国の予測について

—今週のニュース—

1. 現代エンジニアリング、業況について

韓国の主要紙である朝鮮日報は、韓国有数企業である現代エンジニアリングが米国の建設・エンジニアリング専門誌である「エンジニアリング・ニュース・レコード」が発表した「世界の設計会社225社」リストで、2年連続でアジア最高のエンジニアリング企業として評価されたと報道している。

現代エンジニアリング社は、この評価に対して、

「今年の順位上昇はウズベキスタン、トルクメニスタンなど新興市場で大型プラントのEPC（設計、調達、建設を含む工事請負契約）プロジェクト受注に成功したことが大きかった。」

とコメントしている。

更に、同社は、同社の昨年の海外設計売り上げが7億5,000万米ドルとなり、2007年の9,440万米ドルに比べて何と7倍も伸びたことを強調している。

尚、朝鮮日報は、同社のほか、韓国企業ではSK建設（57位）、韓国電力技術（84位）など12社がランクインしていると報道している。

2. 外貨準備高動向について

中央銀行である韓国銀行が発表した本年7月末現在の韓国の外貨準備高は3,708億2,000万米ドルとなったが、前月末対比では39億3,000万米ドル減少している。

外貨準備高が前月対比で減少したのは6カ月ぶりであり、韓国銀行は外貨準備高が減少した理由について、米ドル高でユーロなどの通貨資産の米ドル換算額が減少した為であると説明している。

また、詳細を見ると、外貨準備高の90%以上を占める有価証券は3,372億3,000万米ドルで前月より19億3,000万ドル減少している。

尚、韓国の外貨準備高は6月末現在では、世界6番目であり、第1位は中国本土の3兆6,938億米ドル、続いて日本（1兆2,429億米ドル）、サウジアラビア（6,721億米ドル）、スイス（6,004億米ドル）、台湾（4,214億米ドル）となっている。

当面は韓国の外貨資金繰りは安定的であると見ておきたい。

3. 三星電子、業績について

米国の市場調査会社である「ICインサイツ」は、韓国の三星電子の本年4～6月期の半導体売上高は103億100万米ドル（但し、受託製造分を含む）となり、前期対比10.3%増加したと発表している。

一方、世界第一位のインテルは前期対比2.7%増の119億4,600万米ドルとなっている。インテルの2014年通年の売上高は三星電子より36%多くなっているが、今年4～6月期は16%上回るに留まっており、ウォン高にも拘らず、三星電子の売り上げは善戦していると評価されている。

今後の動向をフォローしたい。

4. 現代・起亜自動車グループ、国内販売について

韓国自動車産業協会は、韓国最大の自動車メーカーグループである現代・起亜自動車グループの本年7月の韓国国内シェアは68.9%となり、前月を1.6ポイント上回ったと発表している。3カ月ぶりのシェア上昇となる。

韓国の自動車業界は、

「現代自動車・ソナタ、起亜自動車K5などの新型モデルを同時発売した効果である。」

と上昇の背景を分析している。

今後の展開を注視したい。

5. 7月の輸入車動向について

韓国輸入自動車協会（K A I D A）は、韓国の7月の輸入車の新規登録台数が前年同月対比14.3%増の2万707台となったと発表している。

しかし、単月として最多を記録した前月に比べると14.7%もの減少をしている。

一方、本年1～7月の累計登録台数は14万539台で、前年同期対比では25.1%増加しており、輸入車の人気が続く高いと見ておきたい。

6. 南北関係について

今月5日から北朝鮮を訪れていた韓国の金大中元大統領夫人の李姫鎬氏が予定を終えて帰国した。しかし、聯合ニュースによると、期待されていた金正恩第1書記との面会は実現せず、南北関係改善を巡る北朝鮮の消極姿勢が確認されたとされている。

即ち、北朝鮮の祖国平和統一委員会のウェブサイト「わが民族同士」は、今回の背景について、

「南朝鮮（北朝鮮では韓国のことを南朝鮮と呼んでいる。）当局の非協力的な態度と保守勢力の脅しの中でも毅然と北を訪問した。」

と李氏を讃えたものの、朴政権を批判するコメントを示している。

今後は中国本土がこの北朝鮮に対して如何に出るか注視したい。

7. 米中韓関係について

北京で9月3日に開かれる予定の「抗日戦争勝利記念行事」を巡り、オバマ米国政権は韓国側に対して、

「朴大統領がこれに出席すれば、米韓同盟に中国本土が楔を打ち込んだとの誤ったメッセージを世界全体に送ることになる。」

との懸念を伝達し、これに対する出席を見合わせるよう事実上求めている。

即ち、米国は日韓関係の悪化と言うよりは米国の威信低下と中国本土の台頭を懸念しての韓国に対する圧力を掛けたと見ておきたい。

尚、韓国大統領府は、韓国の朴大統領がワシントンで本年10月16日にオバマ米大統領と首脳会談を行うと発表している。

米韓同盟の強化をアピールする見通しであると言われており、一応、韓国政府は米国を意識しているものと思われる。

しかし、韓国政府は抗日戦争勝利記念行事出席の可否については今のところははっきりとした決定は示していない。

中国本土や日本を強く意識した米国の動きと今後の韓国の更なる反応をフォローしたい。

8. 米韓合同軍事演習について

米韓連合軍司令部は、朝鮮半島有事を想定した定例の合同軍事演習である「乙支フリーダムガーディアン」と呼ばれる演習を今月17～28日の日程で実施すると発表した。

先日、非武装地帯の韓国側で発生した地雷爆発で北朝鮮の責任を追及する韓国の動きもあり、南北間の緊張が高まる中での演習であるが、米韓連合軍司令部は、

「最近の状況（＝地雷爆発事件）とは無関係で、防衛目的の定例的な訓練である。」

とコメントしている。

これに対して、この「定例の」軍事演習に対してそもそも強い批判をしている北朝鮮の国防委員会は、

「演習が強行され、その度合いが高まるほど、それに対する我々の軍事的対応も激しくなる。

米国が軍事的対決の道に進むなら、そこから招かれるあらゆる結果に対し全面的な責任を負うことになる。

演習が“平壤占領”を狙い、膨大な武力と核戦争の装備を動員して行われている。

これは明らかに軍事的挑発である。

米国の核による挑発を抑止するために必要なあらゆる措置を講じる。」

と強く反発している。

動向をフォローしたい。

9. 輸出入物価指数について

中央銀行である韓国銀行が発表した本年7月の輸出入物価指数によると、輸出物価指数（2010年を100とする）は前月対比0.9%上昇の85.74となっている。

これは前年同月対比では1.7%下落した水準となる。

国際原油価格は下がったものの、ウォン・米ドル相場の平均が前月の1米ドル＝1,112.20ウォンから先月は1,143.22ドルとウォン安が進んだ影響で、前月対比で上昇したと分析されている。

一方、先月の輸入物価指数は同0.1%下落の81.97で、3カ月ぶりに下落に転じている。

デュバイの原油価格（月平均）が前月の1バーレル当たり60.84米ドルから先月は55.61米ドルに下がったことを受けての状況と見られている。

今後の動向をフォローしたい。

10. 零細事業者数について

韓国政府・統計庁は、零細自営業者数が1994年以降の21年間で最も低い水準に落ち込んだことを伝えている。

景気が低迷していることに加えて、中東呼吸器症候群（MERS）の影響を受けて、零細自営業者の倒産が増えたと分析されている。

こうしたことは、韓国国内で社会問題化する可能性もあり、注視したい。

11. 日朝関係に関する韓国の予測について

韓国のニュース専門局であるYTNは、日本と北朝鮮の政府当局者が7月末にモンゴルの首都ウランバートルで接触したとの観測報道をした上で、

「日本の安倍首相の8月中の訪朝と、金正恩第1書記との首脳会談の可能性について協議したもの

と見られる。」

と報道している。

筆者の経験ではモンゴルは南北両朝鮮に近く、また日本とも緊密な政治的な関係を持っており、筆者がモンゴルの仕事を多くしていた2002年前後も日朝関係に関する水面下での非公式な動きがあったことを記憶している。

そしてまた、そのモンゴルに対しては韓国の政府・民間が日本以上にコミットしており、日朝のこうした水面下の動きを現地でキャッチした可能性は十分にあると見ている。

いずれにしても、観測報道の域を超えず、また北朝鮮を相手とする政治的な動きであることから事態がどのように動くかは分からないが、このような観測報道が流れた点は留意しておきたい。

[トピックス]

今日は経済のお話ではありません。

申し訳ありません。

私は食べるのが大好きです。

何を食べても美味しく、大学時代の野球部の後輩たちからは、今でも、

「真田さんは何を食べても美味しいと言うので、どれが本当に美味しいのか分からない。」

と言われるほど、何でも美味しく戴きます。

更に、野球部時代の胃袋の大きさをベースに、たくさん食べますので、太る一方でもあります。

そうした中で、私が好きな、美味しいと思う食べ物の一つは、「お味噌」であります。

ご高承の通り、味噌は副食素材が豊富になった今日では調味料とみなされる事もありますが、私には間違いなく「おかず」であります。

否、私のみならず、日本の古来の食生活に於いては、多くの日本人にとって、味噌は主要な蛋白源であったとも思います。

ところで、味噌の主な原料は大豆（但し、戦国時代などは主に糠が原料とされてきました）で、これに麴や塩を混ぜ合わせ、発酵させることによって大豆のタンパク質が消化しやすく分解され、また旨みの元であるアミノ酸が多量に遊離したものであります。

所謂、発酵食品ですね。

日本の味噌は温暖多湿という日本の自然環境の中、職人技により製造されますが、最近では、食品の衛生基準と言うハードルが出来て、これまでの味噌作りの伝統を守りづらくなっていることもまた、事実です。

現在、味噌の種類は豊富になっており、その地域、種類により赤味噌、白味噌、合わせ味噌（調合味噌）などと区別されています。

私はどの味噌も好きで、味噌汁はもとより、ご飯に野菜に、味噌をつけて食べるのが大の好みです。

そしてまた、この味噌、美味しいだけではなく、健康にも良さそうです。

長年の経験、検証では、味噌は食品として万能であることが江戸時代の本朝食鑑と言う書物にも記載されており、その健康増進効果から、「味噌汁は医者殺し」と当時から言われていたとの記述もあります。

そして、私が注目している「味噌効果」は、放射能対応に優れているのではないかということです。即ち、長崎の被曝医師の秋月辰一郎先生は、自身、患者、職員に原爆症が発症しなかった原因は「わかめの味噌汁」によるものであると述べていらっしゃいますし、また、1986年のチェルノブイリ原発事故の際には、西ヨーロッパ諸国では、「味噌は放射能障害に効果がある。」といった説が広まって味噌製造元に注文が殺到し、輸出量が通常時の数倍増になったと報告されてもいます。

そして、味噌と放射能防御能力の関係を調べるための動物実験では、十分に熟成した味噌ほど放射線防御作用が高いとも報告されています。

東北地方を回った発酵食品の専門家の先生が、「お味噌を食べて復興を促進しましょう。」と声をかけられていましたが、味噌には本当に復興地域の放射能を吹き飛ばし、人々を元気にする力が潜んでいるのではないかと感じる私であります。

[今週の“街角のお話”シリーズ]

今は「夏の甲子園」で日本各地が燃えている時期でありましょうか。

しかしまた、最近では、低迷していると言う野球人気の中で、その甲子園の高校野球も少しずつ人氣が落ちていくと伺い、野球によって育てられてきた私にとっては少し寂しい状況です。

そうした中、私は自分の大学の野球部出身者が社会人野球でも活躍していることもあって、都市対抗野球が個人的には大好きであり、時々、先輩、後輩のいるチームの試合を観戦しに行きます。

しかし、今年は多忙で結局はもう試合を見られないと諦めていたのですが、幸いにも決勝戦の日の夜に少し時間が出来、試合後半からゲームを観戦することが出来ました。

前半リードしていた大阪ガスがゲーム後半に日本生命に追いつかれ、延長戦に突入、結局は初優勝を目指した大阪ガスは数回の優勝経験のある古豪・日本生命にねじ伏せられ延長14回力尽きると言うゲームでした。

私は、両チームともに私の先輩がいらっしゃるのですが、この日は私の年代に近い先輩、後輩がいる大阪ガスの応援席に途中から入りさせて戴き、既にたくさんの応援団がいらっしゃったことから、レフトのポール際、ほぼ、外野席というところで、ゲームの成り行きを見ていました。

すると、私の目の前で観戦していた同社の社章をつけた社員の方の中の数人がビールを飲んでいたので、酔っていたのか、ゲームの後半に応援団の方から渡された優勝の際に投げるテープを遊びながら、ゲームに関係なく、これを一度投げました。

これを見た応援団が直ぐに駆け寄り、まだ試合途中ですから、テープは投げないでくださいと声をかけ、この方たちも、遊びでテープを投げたことを、「申し訳ない。」と言っていたのですが、試合はいよいよ9回の裏、ツーアウト、ランナーいるところで、バッターが私たちのいるレフト線に痛烈な打球を打ち、「サヨナラ勝ち、大阪ガス初優勝か？」と思いましたが、ぎりぎりのところで線を割り、ファウル、結局その後、この打者は倒れ、試合は延長戦に突入し、最終的には大阪ガスは敗北するという試合でした。

その際の様子です。

「いざサヨナラか？」と思った瞬間に上述した件の方々がテープをグラウンドに投げ込みました。しかしお話ししたように、結局はファウル、この結果、投げ込まれたテープは試合の妨げとなるので、東京ドームの係員たちがあわてて集めると言う事態となり、試合は一度、中断しました。

このとき、私は長年の経験からレフトポール際という遠い位置からではありましたが、中断時間の数分間の日本生命の投手と、残念ながらのファウルを打った打者の様子をしっかりと見ていました。

その際に感じたことは、投手は危機一髪、救われたことを受けて、この中断時間中に深呼吸をしながら、「しっかりと押さえるぞ！！」と気合を入れ直した、一方、打者は残念さをその姿勢から示し、「もう一度決めてやるぞ！！」という意思の強さを投手よりは示せなかった、結局が凡退となり、延長線、敗戦に繋がっていったということです。

誤解なさらぬでください、初優勝を待ちわびる社員の方がテープを投げたことや、選手が凡退したことはある意味では結果論で仕方ないことでもあります。

しかし、その際のちょっとした動きに関する因果、動きが、結局は、「勝つか負けるか」という大きな結果の因果に結びついている、従って、その小さな因果を感じ、自らに流れを呼び寄せる動きをした者とできなかった者では結果に違いが出るという事を私たちは知らなければならないのではないかということをおは強く感じたのであります。

「世の中には常に流れがある。

その流れを読み、因果を感じながら、上手に泳ぐことが大切である。」

がっぷり四つの日本生命と大阪ガス、その差は本当にほんのちょっとした差であったと思います。

しかし、結果は優勝と準優勝、大きな違いとなりました。

[英語で一言]

FOREX market=外国為替市場

FOREX Market とは、Foreign Exchange Market の略で、外国為替市場を指します。

世界中にはたくさんの通貨があります。

「通貨は国家主権の象徴」とも言われ、各国が通貨を発行しますが、その通貨を、「もの」と同じと考えれば、「通貨同士の交換」が必要となります。

その通貨交換をする場所が外国為替市場であります。

主要な外国為替市場は、ロンドン、ニューヨーク、東京であり、その中でもロンドンは今でも世界の外国為替取引の36%を占めていると言われております。

通貨のスタンダードもまた英国の存在が依然として大きいと見ておきたいと思っております。

さて、この夏休み休暇、世界の外国為替市場はどのような動きを示すのでありましようか？

静かなお休みとなるのでありましようか？

FOREX Market is the name and meaning of Foreign Exchange Market.

As you may be aware, there are many currencies in the world.

It is said that

“Currency is the symbol of the sovereignty of the state”.

Basically each countries issue each currency under its sovereignty.

And if we think each currency is equal to goods, we can exchange those each countries' currencies.

FOREX market is the market where we can freely exchange those currencies under its rule.

Main FOREX market in the world is said to be London, New York and Tokyo and among those markets, in terms of turn over or trade volume, the share of London is about 36% and said to be No1 market.

As for the standard of the world currency, we should understand that the influence of Grate Britain is still big and strong.

In this summer vacation season, what movement can be seen? Or market is quiet as usual summer?

[主要経済指標]

1. 対米ドル為替相場

韓国：1米ドル／ 1. 178. 33 (前週対比－11. 34)

台湾：1米ドル／32. 15 ニュー台湾ドル (前週対比－0. 50)

日本：1米ドル／ 124.28（前週対比＋0.56）

中国本土：1米ドル／6.3908人民币元（前週対比－0.1812）

2. 株式動向

韓国（ソウル総合指数）：1,983.46（前週対比－29.83）

台湾（台北加権指数）：8,305.64（前週対比－143.92）

日本（日経平均指数）：20,519.45（前週対比－144.99）

中国本土（上海B）：3,965.335（前週対比－303.796）

以上

草の根の辻説法師を目指す

真田幸光